

表題：第7回瑞穂町の協働を考える会議 概要

- 1 日 時 平成25年10月21日（月曜日） 18時から20時
- 2 場 所 町民会館第2会議室
- 3 出席者 （構成員） ※敬称略
飯田弘、榎本和己、加戸佐織、香取幸子、川口尊、古宮郁夫、
中沢清、野本多恵子
（事務局）
住民部長田辺健、地域課長大井克己、地域課地域係長友野裕之、
地域課地域係主任福島聡
- 4 欠席者 近藤隆幸、清水久央、辻山幸宣（瑞穂町協働施策推進アドバイザー）
- 5 議 題 1 （仮称）瑞穂町協働宣言案の骨子について
2 その他
- 6 配付資料 1 次第（当日配付）
2 意見募集結果（当日配付）
3 瑞穂町の予算について（当日配付）
4 議会のしくみ・構成（当日配付）
5 第6回瑞穂町の協働を考える会議まとめ（事前配付）
6 （仮称）瑞穂町協働宣言案の作成にあたり（事前配付）
- 7 開会
座長
- 8 あいさつ
住民部長
- 9 資料の確認及び説明
友野係長から
・ 資料の確認
・ 会議の進め方について説明
【質疑】なし
- 10 議題1 （仮称）瑞穂町協働宣言案の骨子について
【キーワードの検討】
 - ・ 義務的な印象や悲壮感があるものよりは、「楽しそうで気楽なイメージが良い」と感じました。
 - ・ 「人と町、つなげるあなたの、その1歩」、「手をとって、みんなで楽しむ、町づくり」と標語形式で作ってみました。
 - ・ 事務局としては宣言の中に共通して入れていく言葉を考えていますが、文章にある言葉を元に入れていくのも良いと考えます。
 - ・ 津島市の例、「ふれる」のように語尾に当たる言葉でも良いが、先頭に当たる言葉でも構わないと思います。語尾に当たる言葉にとらわれる必要はありません。

- ・ 理念には共通する言葉が入っていて、その中には「つながる」や「つなげる」といった言葉が出ていました。いろいろなものがつながっているということで、青梅街道や16号など一見関係がないように見えて、人と物流の架け橋にもなっているのかと思いました。
- ・ 「つながる」、「つなげる」という言葉は、津島市の協働宣言にあたる「ふれる」にあるように、ひとつのキーワードになるのではないのでしょうか。
- ・ 協働するにしても遊び心がなければ続かないと思います。ただ、そういう言葉を入れてしまうと砕けた感じになってしまうのではないかとも思います。「遊び心」や「楽しい」ということがあっても良いと思います。
- ・ 「つながる」や「つなげる」という言葉は凄く良い言葉だが、どこでもある感じがするので瑞穂町ならではのようなものがないものかとも思います。
- ・ 誰でもすんなり入り込めるような、呼びかけるような言葉があったら皆が自然に関わってくれるのではないかと思います。
- ・ 歴史のある町とかみ合わせながら「住み続けたい町、暮らしやすい町づくりに皆と一緒に参加しませんか」と呼びかけるような言葉が良いのではないのでしょうか。
- ・ 人と人がつながっていく中で、「つなげる」という言葉が入っても良いと思いますが、もっと優しく語り掛けるような言葉があったら良いと思います。
- ・ 「汗を流す」という言葉が印象に残っています。それは「行動する」ということだとも思います。「行動する」ということをどこかで表現できれば良いと思います。
- ・ 言われて行動するのではなくて、皆で考え、その次に行動が起こることだとも思います。単純に「皆で考える」というのはつまらないので、そういう言葉があれば良いと思います。
- ・ 住んでいるところを好きにならないといけないし、この町が好きだということ表現できるというのは、自分たちが町づくりをしているという裏づけにもなると思います。皆で考え、汗を流し、町づくりをして、私はこの町は好きだという組み立てができれば良いのではないのでしょうか。
- ・ 「皆でやろう」となった時に、良い形で入ってきてもらえるような言葉があれば良いと思いました。「支え合い」や「手を取り合う」というのもどうなのかなという感じがします。
- ・ 協働の形自体が皆の頭の中に無かったことではないのでしょうか。協働はこれから皆でやっていく公の作業であり、これから新しく始まるということであれば、「新しいことなら自分たちも入れる」という気持ちが出てくるのではないのでしょうか。
- ・ 『たまエコニュース』には、構成市町村のゴミの焼却灰や不燃物の出す量が一覧で出ています。今回意見募集した結果の中にもゴミのことがあります。例えば、今の瑞穂町のゴミの排出量はどうか、瑞穂町は26団体の中で一番

悪いのか少ないのかという意識を持つことも一番簡単な協働なのではないでしょうか。

- ・ 現実、瑞穂町は26ある中で、下から10番目くらいで、出しているゴミの量が多いです。こういうところに気がつくことや、一人ひとりがゴミの減量をしていくということを表現できれば良いのではないのでしょうか。このような意識が高まれば本格的にゴミが減らせるだろうと思います。ゴミの処理費も瑞穂町は予算を取っています。処理費を削減できたとなれば、自分たちでやってきたことをその他に回せて、別のことができるということでもあると思います。
- ・ 個人が集まって、「皆でやっていこう」となり、そこに行政も一緒にやろうとなっていくと協働につながっていくのかと思います。
- ・ ゴミの関係については環境課の廃棄物減量等推進協議会で審議しています。どうしたらゴミを減らせるかということで、段ボールのコンポストを作ってリサイクルプラザで試したり、生活学校にお願いしてメンバーの方に段ボールコンポストを作ってもらい、家庭から出る生ゴミを堆肥化させたりしました。その部分がひとつの協働ということと、これについては町のホームページにも掲載していて、半年間掲載していますが、そういったことも恐らく知らないのではないのでしょうか。町のPRが下手なのもあると思いますが、そういう情報も積極的に流したり、逆に町民の方も町のことに興味を持ってホームページにどんどん突っ込んでもらいたいと思います。一概に比較はできませんが、なぜ瑞穂町が多いとか他市が多い少ないといったことについて興味を持ってもらい、町に問合せをしてもらおうことや、町の方にアクションをしてもらいたいと思います。
- ・ 「つながる」、「つなげる」という言葉について、住民と行政がつながって作り上げていくということが協働なのではないのでしょうか。住民と行政がつながり、作り上げていく。その中では遊び心があって、楽しくないといけないと思います。
- ・ 行政と住民がつながるところではどうしても行政はPRが下手ということもあり、つながりにくくなってしまうことがあると思います。住民と行政が早くつながっていけば、お互いに意思疎通し、協働ができるのではないのでしょうか。
- ・ 協働宣言の内容をどのレベルまで引き上げるのかということもあり、範囲は難しいと思います。各種団体が、いろいろな活動の中で、その活動をつなげてより良い地域を作っていくという程度に留めるのか、お金を払って委員会を立ち上げてやっている所もあるが、お金を出さずに、組織の中でやっていくのか。それによってはかなり表現することが違ってくるのではないかと思います。
- ・ 今後行政、町民、地域の皆さんが何を瑞穂町に求めているのか、どうなって欲しいのかがひとつ大きなことです。皆さんの夢のようなものを掲げ、その下にどのような行動規範を持てば良いのかということなので、協働宣言はかなり崇高なものになると思います。次年度には実際何をしていけば良いのか、どう改

善していけば良いのか議論を深めていただきたいと思います。決して実現不可能なものにたくありませんので、その辺りも見据えて作り上げていきたいと思ひます。

- ・内容は抽象的なものにならざるを得ないと思ひます。個別具体的なものについては長期総合計画になるので、底辺に流れる根本的なものを掲げることを考えています。町の憲法といひますか礎になるようなものを考えていますが、あまりにも実現不可能なような綺麗ごとばかりを並べることもできません。バランスも難しいと思ひます。瑞穂町は他市に比べ住民参加の部分が充実してないので、一気に高いレベルまで持っていってしまうと掲げただけで終わってしまうのではないかと思ひます。
- ・ある事業で、時間をかけて固め、かなりいい線までいったものが町のトップの事情でひっくり返されてしまったとことがありました。理事者や管理職の方が、協働で住民や委員会で作ってきたものをどれだけ尊重していただけるのかになると現在協働のことをやっけていても今後どうなるのかと思ひました。
- ・長期総合計画を22年度中に作りましたが、そこでは自立と協働ということを基本理念に据え、議会の議決もされているので、相当重たいものです。しかし、最終的に理事者が決定する段階で異なる方向になることはあります。協働宣言が議決されれば、それが力になって根本になっていることが言えると思ひます。
- ・根底になるようなものがベースとしてできればということですが、それが抽象的であれ何であれ、協働宣言することによって、どんな小さな事業でも協働宣言をやっけて初めてのケースをビジネスモデルとして登録していくようなシステムができて良いと思ひます。また、住民と町で小さいものを積み重ねること、住民の中にも「協働とはこういうことなのか」ということでスタートできれば宣言する意味があるのではないのでしょうか。長期総合計画に入っけてだけではなく、宣言されている文言として生きてくると思ひます。
- ・分かりやすい言葉で、どのようにも捉えられる言葉というのも宣言文としては大事ではないかと思ひます。
- ・「私たちの事業は協働するから町はたくさんお金を出してよ」ということが出てきてしまうと困ってしまいます。
- ・「実現できること」、「それぞれの立場ができること」、「できる」という言葉は凄く力強く前向きな言葉だと思ひます。ただ、協働というものをイメージしてもらうためには「できる」という言葉だけだと難しいのかもしれませんが、自分ではできないことも協働することでできることもあるので、前向きな言葉があると良いと思ひました。
- ・「つなぐ」や「補い合う」というのは協力するということであって、それよりもっと関わると良い形になることや、結果が見えるようなことをキーワードにすれば良いと思ひます。表現が強すぎると言われるかもしれませんが、協働することでできることはたくさん出てくるので、「できる」という言葉が出てくれ

ばと思います。

- いろいろな立場の人ができることがあると思います。弱い人も強い人も関係なく自分のできることをやるのが協働であると思います。
- とりあえずの動き出しというのは、同好会といいますか、この指とまれといった部分で、とりあえず集まろうということだと思います。そこで集まったことで議論していき、それが行動に移るということで動き始めることが最初に目指すところではないでしょうか。ただ、それが単に資金獲得のための圧力団体になるようでは困ってしまいます。
- 高い理想を掲げたとしても、集まって行動して得られるものが生きがいであったり、やりがいであったりにつながるような結果が出てくれば、そこからどんどん成長していくのではないかと思います。まず動き出しの部分で興味を引くようなところがキーワードになれば良いのかと思います。
- 「分け合い、そしてひとつになる」というのはどうでしょうか。
- 何らかのお金を生み出す仕組みを皆で考えていこうということがあっても、それを町の予算から引っ張ってこようというのは協働とは違うと思います。人が集まって団体ができると活動資金の部分がでてくるので、活動資金について考え方が変わらないと協働にならないと思います。
- 文章を作っていく際、あまりマイナスのことを考えず、できるだろうということからプラス思考で考えた方が良いと思います。
- 他の自治体にあるようなものでは面白くないと思います。
- 「分け合いそしてひとつになる」というのも良いと思いました。協働は「みらいにずっとほこれるまち」を実現するため手段で、自立は行動の部分です。協働の中で、「分け合い」ということは行政と町民の皆さんの役割を明確にすることが出てきますし、その中で「つながる」ことや「楽しい」ということがキーワードとなり、やることで自分たちが良ければ良いと思います。
- 退職する方も出てきて、その方の中には凄い知識を持った方がたくさんいるかもしれないので、その人たちの中で分け合ったりして、ひとつになれば良いものができていくのではないのでしょうか。
- 一番初めの会議の副町長の話の中で民主主義ということがありましたが、そこにまで踏み込んでいけるかどうかもあると思います。
- 今まで行政はお金があるままに地域のことまで手を伸ばした結果、地域のコミュニティを壊してしまったことがありました。「行政はここまで、地域はここまで」というようにできることを分担していくと必ず隙間の部分が出てくると思いますので、その部分は行政がお金をかけてやっていくことで発展していかれることもあると思います。
- 自分の町は好きだとか嫌いだとかあると思いますが、自分でできることは何だろうというような原点に立ち返るようなことも必要だと思います。
- 方針が理念につながるために、理念にどういう言葉を入れた方が良いでしょう

という逆の考えの方がキーワードも出しやすいのかと思いました。

- ・ 前に勤めていたところで理念と方針を考える会議があり、2年ほどかけて作りました。子どもたちやお母さん方は保育園に何を求めるのかを考えたとき、「一緒にお昼寝したい」や、「お母さんを助けてあげたい」などで、それらを補う言葉は何かを考えたとき、「家族」だということになり、「家族」をキーワードとしました。保育園は家族であるならば、家族はどんなことができるのか、どんなことが楽しめるのかを方針に盛り込んでいくことで、ひとつの企業理念ができました。
- ・ 前回の会議までいろいろ意見も出ましたので、その中から作り上げられれば良いのではないのでしょうか。
- ・ 方針にいろいろ書かれていますので、この中で作っても問題はないと思いますが、これをもっとはっきりさせていけば良いのではないのでしょうか。
- ・ 方針の3つ目にある「人と人をつなぐことができる人が必要」といった部分では、人材の発掘とリーダーの育成、養成が凄く大事なのではないかと思います。例えば、長野県のPPK運動は徹底的にリーダーを養成しました。役所はそこに投資しました。また、その人たちが働きやすい場を作り、事業が動きやすいように役所が守っていくというようなことが必要なのではないかと思います。人材発掘と同等あるいはそれ以上に養成や育成に力を入れていかなければならないと思います。
- ・ 国体のときに、食事を先に食べてしまうことや、おもてなしの花を持っていってしまうといったことがあったのは、恥ずかしいことだと思いました。
- ・ 瑞穂町に住んでいる人は町のことに無関心なのではないのでしょうか。無関心さというのは最終的には自分の首を絞めてしまうので、地域が崩壊してしまうかもしれないという危惧を持つのも必要だと思います。投票率のこともありますが、あまりにも町のことに無関心なのではないかと思います。そのため、協働といっても結局は「勝手にやれば」というような思いが強いかもかもしれません。それを一緒にやっということなので大変なことだと思います。
- ・ 一番大事なのは、積極性を皆が持つことですが、誰かが勇気を持って「この指とまれ」と言っても、とまる人がいないと、手を挙げっ放しで終わってしまいます。条件を読んで手を挙げないと、挙げている人が損してしまいます。
- ・ 行動を起こす人は少ないというのがありますが、そういった方はある意味余裕があるのではないかと思います。
- ・ 何事にも関心を持つといいますか、行動を起こすリーダーに付いていくのも良いし、得意分野の中でできれば良いと思います。無関心ではなく何事にも関心を持ってもらいたいというのはあります。
- ・ 無関心のことは、国全体のことなので瑞穂のことだけ考えてもしょうがないと思います。自分がやっているボランティアも10人集める時もあれば80人集める時もあり、場によって変えています。基本的に興味のあることや好きな

ことだと皆やりますので、協働といっても普通の生活のことでやろうとしてもなかなかしないと思います。興味のあることについては、協働が出てくる可能性が高いのかと思います。

- ・ マウンテンバイクで山を走るには道があれば良いですが、そこに住んでいる人もいるので、その中に入っていかなければなりません。そこに入っていくにはどうしたら良いかという、そこに住んでいる方たちと同じことをやっていくことなどがあります。その中で面白みを見せていきます。最初から高い理念や使命感のあることを見せても誰も来ませんので、まずは遊びに近い形から協働を始めて良いのではないのでしょうか。すごく緩くても良いのかと思います。ただ、仕掛ける側、上に立つ側は、そういう流れをすべて見た上でそういう仕組みを作らなければなりません。
- ・ 役所と一緒に作ったマップは元々自分がやりたいことと町が考えていたことをすり合わせました。これはあきる野市も一緒に、市の里山が歳をとってしまってどうすればよいかというときに、市の方はどうにかしたいと考え、我々は遊び場が欲しいと考えました。そこでもお互いがすり合わせをする形になると思います。
- ・ 意見募集もあまり集まらず、これをこの宣言文に書いていいものかと思います。そもそも募集の内容を見ていないということもあると思いますので、面白いことをやっていくことが大事なのかと思います。
- ・ まずは関心のある者どうしが集まるということであると思います。集まって二次的に発生するものがあれば良いと思います。
- ・ 好きな者どうしが集まると単なるイエスマンになり、同じ方向を向くようになってしまいます。変に力を持ってくると錯覚し始めることもあります。そうならないためのバランスとりが必要なのかと思います。そのため、何があって何のためにやっているというエッセンスを持ちながら活動しています。

【議会・議員】

- ・ 議会の方は協働のことについて、どのように考えているのかを知りたいです。
- ・ 議会とは協働のことについてぶつかった自治体もあるようですので、協働宣言について議会の議決をいただくとすると、議員さんが住民の為にやることや、住民自らがやっていくことの違いを分かりやすくしていかないといけないと思います。
- ・ 自分の議員活動と、地域住民の意見がまとまって何かやっていこうということは根本的に違うと思います。そのため、ぶつかるというのはいりうると思います。その整合をどうするのかですが、例えば地域の人たちが「ここをこうして欲しい」と思っている時に、議員さんが「自分もそう思っている」となればそれで大丈夫だと思います。議員さんの考えと地域の考えがマッチするようなことをこの宣言の中に盛り込むという形で議員さんの存在を入れ込めれば良いので

はないでしょうか。

- ・ 議員さんも16名いらっしゃるので、それぞれ考えがあると思いますが、私たちが今までこの会議で議論してきた指針などをぶれさせない方が良いと思います。
- ・ 自分の住んでいる地域の議員さん以外の議員さんとは接点も特にありませんので、なかなか16人の議員さんがどんなことを考えているのかが見えません。
- ・ 議員さんは民意を投票で選ばれています。議会には予算、決算の承認や人事案の同意などその人たちだけに認められた力があり、そこが大きな違いであると思います。
- ・ 協働については、議員さんも私たちも変わりませんが、協働宣言を議会に提出して議会が同意するとなったときには宣言に力が与えられますが、私たち委員にはそのような権限はありません。議員さんは私たちの代表として選ばれていますので、そこは我々が上手く使えないといけないと思います。よって、議会を無視するというのではなく、うまく利用するという立場をとった方が良いと思います。
- ・ 協働について議会との関係で懸念するようなことはないと思います。長期総合計画が平成22年の12月議会で議決をいただいたときも協働そのものについて反対意見はなかったと思います。
- ・ 住民の方は議会のことについて無関心というのがあると思います。関心があれば町のホームページから議会のところに入れますので、そこで議会の中継が流れたり、議員も独自にホームページを開いたりしていますので、興味があれば協働について議員がどう考えているのかを検索すると思いますが、議会活動、議員の活動について興味がある住民も少ないのではないかと思います。議会でも議会報告会を今まで何回かやってきて、ここで11月にも行うようですので、どれだけの方が来られるのかということもあると思います。
- ・ 議員のことについては宣言文に一言も触れない訳には行かないと思いますが、あまり無理せず、ほどほどでも良いと思います。
- ・ 議員がどうであるという捉え方の宣言文にしてしまうと変になってしまうのかと思います。
- ・ 自治をしていく中で議会というのは重要な要素ですので、協働が発展して地域の中での自治が高まり、例えば自分たちの中で協議会を立ち上げたり、政策提言していくとなったときに議員さんの役割に関わってくると思います。そうになると、議員さんも自ら変わらざるを得ない状況になると思います。
- ・ 住民意識が高まれば、議員さんの考え方も住民に伝えていかなければなりません。地域との関わり方も変わってくると思います。
- ・ 9月議会の時に補正予算をある部署で上げたのですが、複数の議員から、「住民参画の視点がないのではないか」と指摘されたことがありました。
- ・ 議員には議決権がありますので、最終的に町のやるべきことは議会が権限を握

っています。そのため、おのずと議員の仕事と住民の行っていることは相反するものではないと思います。

【文章のまとめ方】

- ・ 方針に載っている9項目をうまく加味してまとめていけば良いのではないでしょうか。
- ・ 教育委員会と教育長の関係について組織的な部分の形骸化もあり、いろいろなところで議論されています。この会議は形骸化することなくメンバーと事務局で作上げたものとなれば良いと思います。
- ・ 宣言の内容は多少大雑把なものになると考えています。
- ・ 方針の各項目をグループ化してもらおうとまとめやすいのかと思います。
- ・ 既に敷かれたレールに乗ってやっていくようなことは良くありません。会議の任期を考えればまだ今後もやっていくことがありますので、先にやっていくこともどんな方向に行くのか、やる内容もはっきりしていない中でだんだんはっきりしていく形になっていけば良いと思います。

【会議のまとめ】

「汗をかこう」、「分け合い」、「できる」などのキーワードが出てきたので、それらを加味して事務局でまとめ、まとめたものを原案として次回の会議で議論していくこととしました。

議題 2 その他

事務局から

- ・ 次回会議の日程調整を提案しました。